



# 令和3年度補正予算及び 令和4年度予算案について

令和4年 1月17日

文部科学省研究振興局大学研究基盤整備課

## 自らのミッションに基づき自律的・戦略的な経営を進め、社会変革や地域の課題解決を主導する国立大学へ

- 基盤的な経費の確保により、**全ての国立大学に共通する**高等教育の機会均等の確保や基盤的な研究活動の実施という**ミッションを着実に実施**
- 各国立大学が担う**特有のミッション実現のために必要な取組を推進**するとともに、**社会的なインパクトの創出に向けた戦略的な強化を後押し**
- 国立大学の**活動全体の実績・成果等について共通指標により客観的に評価**を行うことで、一層の**経営改革を推進**

### ミッション実現・加速化に向けた支援

#### ミッション実現戦略分 **202億円 (新規)** 教育研究組織の改革に対する支援 **83億円 (新規)**

- 各大学が社会的なインパクトを創出するために効果的な取組を分析し、戦略的な強化に取り組むことを後押し
- 地方創生、Society5.0、SDGs等への貢献を通じた各大学のミッション実現を加速するための組織設置や体制構築といった活動基盤の形成を強力に推進

#### 教育研究基盤設備の整備 **70億円 (+31億円)** 【令和3年度補正予算額 **98億円**】

- ポスト・コロナや防災・減災、国土強靱化、グリーン社会の実現、デジタル化の加速に資する設備等、教育研究等に係る基盤的な設備等の整備を支援

#### 我が国の次世代を担う人材養成

##### 数理・データサイエンス・AI教育の推進

**12億円 (+2億円)**

- 数理・データサイエンス・AI教育の全国展開を加速するとともに、産学において教えることのできるトップ人材を養成

##### 多様な学生に対する支援の充実

**153億円**

- 大学院生に対する授業料免除の充実 **150億円 (+24億円)**
- 障害のある学生に対する支援 **3億円 (新規)**

#### 大学の枠を越えた知の結集による研究力向上

【令和3年度補正予算額 **101億円**】

##### 共同利用・共同研究拠点の強化

**46億円 (+7億円)**

- 研究組織改革と一体として、国内外の研究ネットワークを強化し、異分野融合、新分野の創成等を促進

##### 世界の学術フロンティアを先導する

**大規模プロジェクトの推進 209億円 (+3億円)**

- 人類未踏の研究課題に挑み、世界の学術研究を先導するとともに、最先端の学術研究基盤の整備を推進

※このほか、先端研究推進費補助金等128億円 (+3億円)

### 改革インセンティブの向上

#### 成果を中心とする実績状況に基づく配分

- 各大学の行動変容や経営改善に向けた努力を促すとともに、国立大学への公費投入・配分の適切さを示すため、教育研究活動の実績、成果等を客観的に評価しその結果に基づく配分を実施

配分対象経費	配分率
1,000億円	75%~125% ※指定国立大学は70%~130%

- 公正な競争環境を整備するため、規模や組織体制の観点から新たにグループ分け
- より実効性のある仕組みとするため、配分指標を見直し

<見直しの例>

- アウトカム重視の指標への見直しとともに、博士課程をはじめ大学教育改革に向けた取組の実施状況に関する指標を追加
- 大学の改革努力を的確に反映するため、研究に関する指標を中心に、新たに伸び率を加味

### 国立大学の経営改革構想を支援

#### 国立大学経営改革促進事業

**50億円 (+2億円)**

※国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(仮称)

- ミッションを踏まえた強み・特色ある教育研究活動を通じて、先導的な経営改革に取り組む“地域や特定分野の中核となる大学”や“トップレベルの教育研究を目指す大学”を支援

## 「共同利用・共同研究拠点」制度について

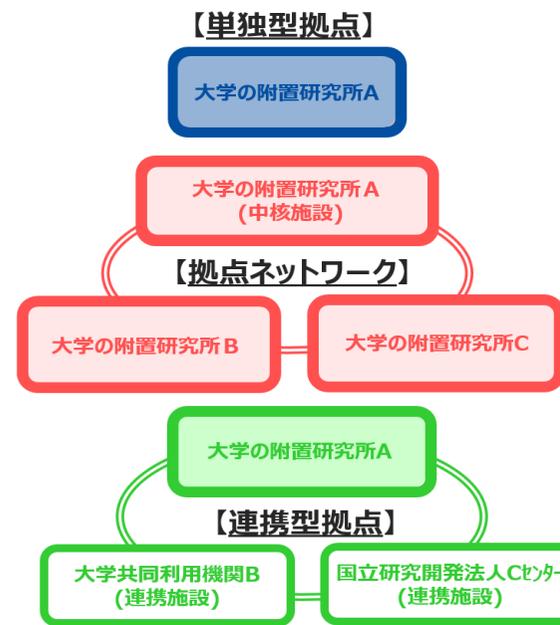
- 個々の大学の枠を越えた共同利用・共同研究は、従来、国立大学の全国共同利用型の附置研究所や研究センター、大学共同利用機関を中心に推進。
- 我が国全体の学術研究の更なる発展のためには、個々の大学の研究推進とともに、国公私立を問わず、**大学の研究ポテンシャルを活用して研究者が共同で研究を行う体制を整備**することが重要
- このため、**国公私立大学を通じたシステムとして、文部科学大臣による共同利用・共同研究拠点の認定制度を創設**(平成20年7月)

➡ **我が国の学術研究の基盤強化と新たな展開**

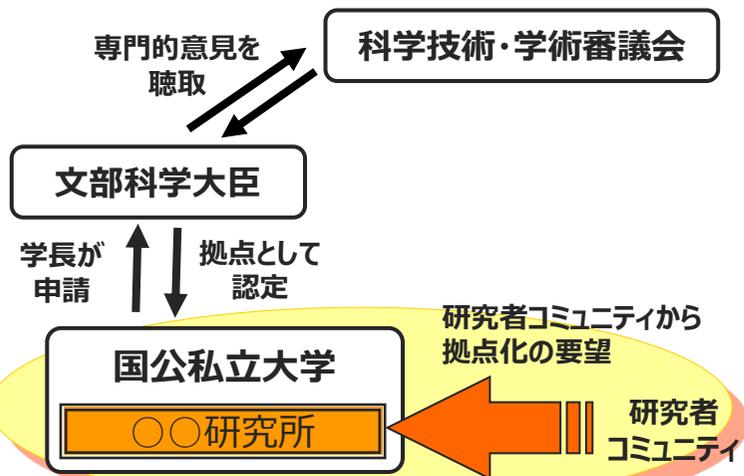
## 制度の特徴

### 3つのタイプの拠点を認定

- ① 単独型拠点**
  - ② 拠点ネットワーク**  
複数拠点の研究ネットワークにより構成
  - ③ 連携型拠点**  
大学以外の研究施設(大学共同利用機関や国立研究開発法人の研究施設等)が「連携施設」として参画
- 国際的な拠点を別途、「国際共同利用・共同研究拠点」として認定(平成30年度～)



## 制度の仕組み



- 第4期中期目標期間(令和4年度～)においては、**78拠点を認定**(共同利用・共同研究拠点72拠点、国際共同利用・共同研究拠点6拠点)
- 認定後、科学技術・学術審議会において**中間評価、期末評価を実施**

## 令和4年度予算(案)の概要

### 共同利用・共同研究支援分：認定経費

- 個々の大学の枠を越えた大学全体の研究力強化を一層加速するため、第4期中期目標期間においても、**拠点の基盤的な共同利用・共同研究活動経費を引き続き支援**
- 学術や社会の動向に応じた拠点活動の更なる活性化のため、**拠点のネットワーク化の促進、共同研究費の充実、期末評価結果の予算への反映等の支援の充実・改善**  
 (【主な支援内容】  
研究者コミュニティの意見を反映させるための外部有識者会議経費、国内外の研究者との共同研究費・共同研究旅費、海外研究機関や産業界との連携等の活動のサポート経費 等)
- 第4期中期目標期間からの新たな**教育研究組織の改革に対する支援と一体として(※)、共同利用・共同研究体制を一層強化**  
 (※) 拠点の基盤的な共同利用・共同研究活動経費に対する支援を充実するとともに、従前の研究プロジェクトへの支援を、研究組織改革に対する支援に発展的に移行することで、**拠点に対する支援を全体として充実させ、拠点を核とする研究組織の最適化を通じた大学全体の研究力強化を一層加速**



## 目的

- 最先端の大型研究装置等により人類未踏の研究課題に挑み、**世界の学術研究を先導**。
- 国内外の優れた研究者を結集し、**国際的な研究拠点を形成**するとともに、国内外の研究機関に対し**研究活動の共通基盤を提供**。

## 大規模学術フロンティア促進事業・学術研究基盤事業

- ✓ 「ハイパーカミオカンデ計画」を含めた**学術研究の大型プロジェクトを着実に推進**
- ✓ 研究・教育のDXを支える「SINET」の高度化など、**最先端の学術研究基盤を強化**

## これまで学術的価値の創出に貢献

- **ノーベル賞受賞**につながる研究成果の創出に貢献

- **スーパーBファクトリーによる新しい物理法則の探求**
- **スーパーカミオカンデによるニュートリノ研究の推進**

H20小林誠氏・益川敏英氏 H14小柴昌俊氏、H27梶田隆章氏  
→「CP対称性の破れ」を実験的に証明 →ニュートリノの検出、質量の存在の確認  
※高度化前のBファクトリーによる成果

- 年間1万人以上の国内外の研究者が集結する**国際的な研究環境で若手研究者の育成**に貢献

- 研究成果は**産業界へも波及**

### 大強度陽子加速器施設 (J-PARC)

(高エネルギー加速器研究機構)

最大級のビーム強度を持つ陽子加速器施設による2次粒子ビームを用いた物性解析  
⇒**タンパク質構造解析による治療薬の開発**

### すばる望遠鏡

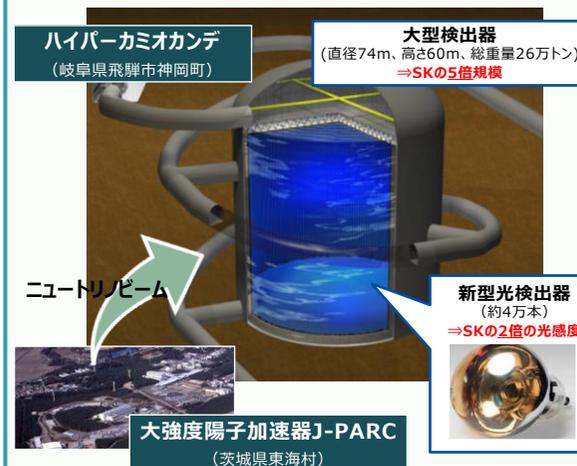
(自然科学研究機構国立天文台)

遠方の銀河を写すための超高度カメラ技術  
⇒**医療用X線カメラへの応用**

## 学術研究の大型プロジェクトの例

### ハイパーカミオカンデ計画の推進

(東京大学宇宙線研究所、高エネルギー加速器研究機構)

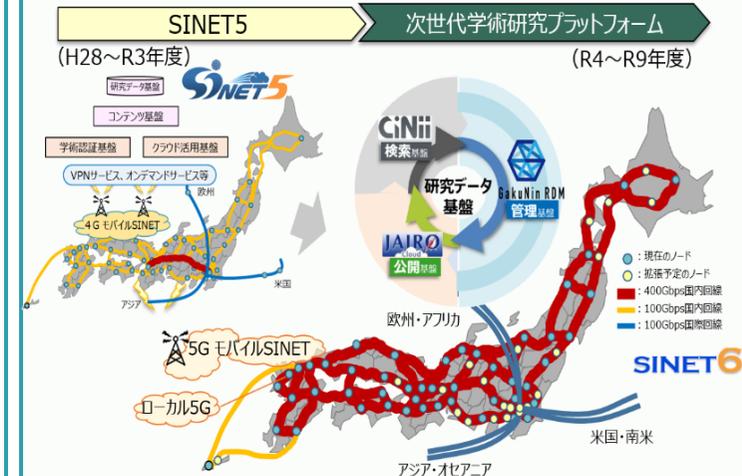


- 日本が切り拓いてきた**ニュートリノ研究の次世代計画**
- 超高度感度光検出器を備えた**大型検出器の建設**及び**J-PARCのビーム高度化**により、**ニュートリノの検出性能を著しく向上** (スーパーカミオカンデの約10倍)

→令和9年度からの観測を目指し、**大型検出器建設のための空洞掘削や、J-PARCのビーム性能向上**等年次計画に基づく計画を推進

### 研究データの活用・流通・管理を促進する次世代学術研究プラットフォーム

(情報・システム研究機構国立情報学研究所)



- **全国900以上の大学や研究機関、約300万人の研究者・学生が活用**する我が国の教育研究活動に必須の**学術情報基盤**

→研究・教育のDXを支える基盤となる**「次世代学術研究プラットフォーム」を構築**

- ✓ **ネットワーク基盤の高度化** (全国を100→400Gbps化、接続点(ノード)の拡大)

## 背景・課題

国立大学等が、次世代を担う人材育成やイノベーション創出の中核としての役割を果たすとともに、被災時等においてもその機能を維持していくためには、教育研究基盤設備の整備を通じた機能強化や感染症対策、防災・減災、国土強靱化等を着実に進めていくことが必要不可欠である。一方、国立大学等の教育研究基盤設備については更新等が間に合わず、老朽化・陳腐化が進行している状況となっている。

## 事業内容

(対応)

各国立大学より要望のある優先度の高い教育研究基盤設備の整備を支援（定額補助）。

(効果)

国立大学等における感染症対策や、デジタル化、防災・減災、国土強靱化等に資する設備の整備を通じて、次世代を担う人材育成やイノベーション創出を行うための環境整備を強力に推進。

## 設備の整備例と期待される効果

### 新型コロナウイルス感染症病態解析・創薬開発システム



分子間相互作用解析装置



高圧式細胞破碎装置



ライトシート蛍光顕微鏡

(設備整備の効果)

細胞やモデル動物を用いた創薬開発を飛躍的に加速させ、ウイルス変異にリアルタイムに対応しながら、実用性の高い診断及び治療法の開発が可能となる。

### デジタルキャンパス情報ネットワークシステム



(設備整備の効果)

大学内のネットワーク通信環境を更新・高速化することで、教育研究等のデジタル化を推進するとともに、災害発生時における情報通信機能を確保することが可能となる。

## 背景・課題

独創的な新技術や社会課題解決に貢献するイノベーションの創出に向けては、多様で卓越した知を生み出す学術研究の振興により、我が国の研究力の強化と研究環境の向上を図ることが求められている。このため、研究者コミュニティの総意を得つつ、国立大学等の知を結集した国際的な研究拠点の形成と、国内外に対する共通研究基盤の提供を着実に推進し、学術研究の卓越性と多様性を確保することが必要である。

## 事業内容

国立大学及び大学共同利用機関において、イノベーションの創出につながる研究、感染症対策、国土強靱化等を進めていくために必要な最先端研究設備の整備を推進する。(以下、例示◆)

- ◆ **ハイパーカミオカンデ(HK)計画の推進** [東京大学宇宙線研究所、高エネルギー加速器研究機構]
  - 日本が切り拓いてきたニュートリノ研究の次世代計画として、超高感度光検出器を備えた**総重量26万トンの大型検出器の建設及びJ-PARCの高度化**により、ニュートリノの検出性能を著しく向上(スーパーカミオカンデの約10倍の観測性能)。
  - 素粒子物理学の大統一理論の鍵となる未発見の陽子崩壊探索やCP対称性の破れなどのニュートリノ研究を通じ、新たな物理法則の発見、素粒子と宇宙の謎の解明を目指す。
- ◆ **大強度陽子加速器施設(J-PARC)による物質・生命科学及び原子核・素粒子物理学研究の推進** [高エネルギー加速器研究機構]
  - 世界最大級のビーム強度を持つ陽子加速器施設であり、多様な粒子ビームを用いて基礎研究から応用研究に至る幅広い研究を推進。
  - 電源増強等により強化されたビームパワーに対応し、競合する海外実験との競争を優位に展開するため、**大規模ビーム対応、ビーム制御増強を実施**。
- ◆ **大型光学赤外線望遠鏡「すばる」の共同利用研究** [自然科学研究機構国立天文台]
  - 米国ハワイ島に建設した口径8.2mの「すばる」望遠鏡により、銀河が誕生した頃の宇宙の姿を探る。約129億光年離れた銀河を発見するなど、大規模な国際共同研究による多数の観測成果を有する。
  - 赤外線観測能力向上のための高度化及び老朽化対策**により、世界最高性能の観測活動を実施。
- ◆ **「スピントロニクス学術研究基盤と連携ネットワーク」拠点の整備** [東北大学電気通信研究所、東京大学スピントロニクス学術連携研究教育センター]
  - スピントロニクス研究基盤の整備により、材料科学、情報科学等の分野及び機関間ネットワークを強化。
- ◆ **強磁場コラボラトリー：統合された次世代全日本強磁場施設の形成** [東北大学金属材料研究所、東京大学物性研究所]
  - 次世代強磁場科学研究基盤の整備により、物質・材料科学の統合研究機構を強化。
- ◆ **ヒューマングライコムプロジェクト** [東海国立大学機構糖鎖生命コア研究所]
  - ヒト糖鎖構造研究基盤の整備により、糖鎖構造の解析技術基盤を確立、研究拠点機能を強化。

### ハイパーカミオカンデ(HK)計画の推進

**ハイパーカミオカンデ**  
(岐阜県飛騨市神岡町)

**大型検出器**  
(直径74m, 高さ60m)  
⇒従来の5倍規模

**新型光検出器**  
(約4万本)  
⇒従来の2倍の光感度

**ニュートリノビーム**

**トンネル掘削工事**  
⇒令和3年度開始

**大強度陽子加速器J-PARC**  
(茨城県東海村)

### 大強度陽子加速器施設(J-PARC)による物質・生命科学及び原子核・素粒子物理学研究の推進

**大強度ビーム対策**

**ビーム制御増強**

## 成果・インパクト

我が国が、世界の学術フロンティアを先導し、次世代研究人材の育成に貢献するとともに、感染症に対する新たな知見の確立や、クリーン・エネルギーの実現など、社会課題の解決に貢献する。

【経済財政運営と改革の基本方針2021(令和3年6月18日閣議決定)】  
 第3章 感染症で顕在化した課題等を克服する経済・財政一体改革  
 4. デジタル化等に対応する文教・科学技術の改革  
 (略) 世界の学術フロンティア等を先導する国際的なものを含む大型研究施設<sup>144)</sup>の戦略的推進や、(略)  
 【科学技術・イノベーション基本計画(令和3年3月26日閣議決定)】  
 第2章 知のフロンティアを開拓し価値創造の源泉となる研究力の強化  
 (1) 多様で卓越した研究を生み出す環境の再構築 (c) 具体的な取組 ④基礎研究・学術研究の振興  
 (略) 世界の学術フロンティアを先導する大型プロジェクトや先端的な大型施設・設備等の整備・活用を推進する。(略)

# 特色ある共同研究拠点の整備の推進事業

令和4年度予算額(案) : 2.6億円  
(前年度予算額 : 2.7億円)



## 背景・課題

- 大学附置の研究所等における、**個々の大学の枠を越え、研究施設・設備、データ・資料等を共同利用に供し、国内外の研究者による共同研究を推進する共同利用・共同研究体制**は、我が国の学術研究の発展に資する中核的システム。
- 平成20年に、こうした研究所等を文部科学大臣が「**共同利用・共同研究拠点**」に認定する制度を創設し、取組を**公私立大学にも拡大**。
- 令和3年4月現在、当該拠点数は、**国立大学79拠点に対し、公私立大学28拠点(公立:10 私立:18)**。  
→ 大学の8割を占める公私立大学が保有する特色ある研究資源を、大学の枠を越えて共同利用・共同研究に活用する体制を充実させる必要。
- **人文・社会科学分野の拠点数は近年減少傾向(H27:12拠点→R3:8拠点)**。  
→ 人文・社会科学の厚みのある知の蓄積や自然科学との融合が求められる中、当該分野の大学研究者の7割が所属する公私立大学の研究資源の有効な利活用は不可欠。

国公立大学の共同利用・共同研究拠点数  
55大学107拠点(国立30大学、公立8大学、私立17大学)

大学	分野	拠点数	大学	分野	拠点数
国立	理・工	39 (5)	公私立	理・工	10
	医・生	30 (1)		医・生	10
	人・社	10		人・社	8 (1)
計		79	計		28

※( )は国際共同利用・共同研究拠点

### ●科学技術・イノベーション基本計画(令和3年3月26日)《抜粋》

第2章2.1(C)⑦人文・社会科学の振興と総合知の創出

- 人文・社会科学分野の学術研究を支える大学の枠を超えた**共同利用・共同研究体制の強化・充実を図る**とともに、科研費等による内在的動機に基づく人文・社会科学研究の推進により、多層的・多角的な知の蓄積を図る。

## 事業概要

### 【事業目的】

特色ある研究分野において、優れた学術資料、研究設備等を有し、研究力の高い**公私立大学の研究所等を、大学の枠を越えて研究者の共同利用・共同研究に活用する**ことを通じて、研究分野全体の研究水準の向上と異分野融合による新たな学問領域の創出を図り、我が国の学術研究の発展を目指す。

### 【事業概要】

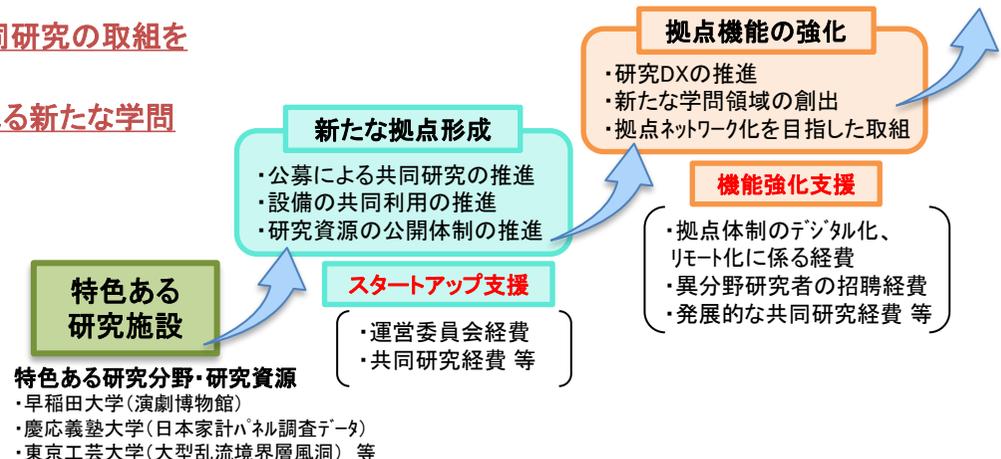
大臣認定(6年間)を受けた「共同利用・共同研究拠点」を対象に、スタートアップのための初期投資、拠点機能の強化を図る取組について支援を行う。

- 新規拠点に対しては、**人文・社会科学と自然科学との融合による共同利用・共同研究の取組を進める拠点**等のスタートアップを支援。
- 既存拠点に対しては、**新型コロナウイルスに対応した研究DXの推進や、異分野融合による新たな学問領域の創出、拠点のネットワーク化を目指す取組**等の拠点機能の強化を支援。

(事業スキーム)

	スタートアップ支援	機能強化支援
支援期間	3年間	1～3年間
支援額	40,000千円以内/拠点 (2年目以降20%ずつ減)	30,000千円以内/拠点 (2年目以降10%ずつ減)
支援拠点	3拠点(うち、新規2拠点)	10拠点(うち、新規3拠点)

### 共同利用・共同研究体制の充実 我が国の研究水準の向上



# 世界と伍する研究大学の実現に向けた 大学ファンドの創設

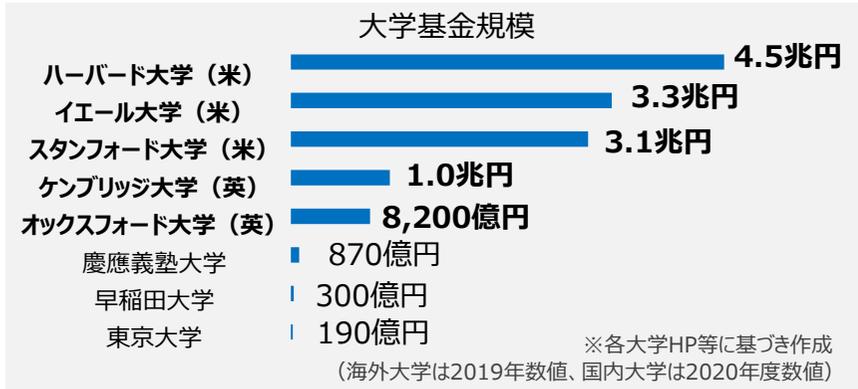
令和4年度財政投融资計画額(案)	4兆8,889億円
令和3年度補正予算額	6,111億円
※令和3年度財政投融资計画額	4兆円
令和2年度補正予算額	5,000億円



## 背景・課題

- 近年、我が国の研究力は、世界と比べて相対的に低下。他方、**欧米の主要大学は数兆円規模のファンドの運用益を活用**し、研究基盤や若手研究者への投資を拡大。
- 大学は多様な知の結節点であり、最大かつ最先端の知の基盤。我が国の成長とイノベーションの創出に当たって、**大学の研究力を強化することは極めて重要**。
- 我が国の大学の国際競争力の低下や財政基盤の脆弱化といった現状を打破し、**大学を中核としたイノベーション・エコシステムを構築**するため、これまでにない手法により**世界レベルの研究基盤の構築のための大胆な投資**を実行する。

## 欧米主要大学の基金規模



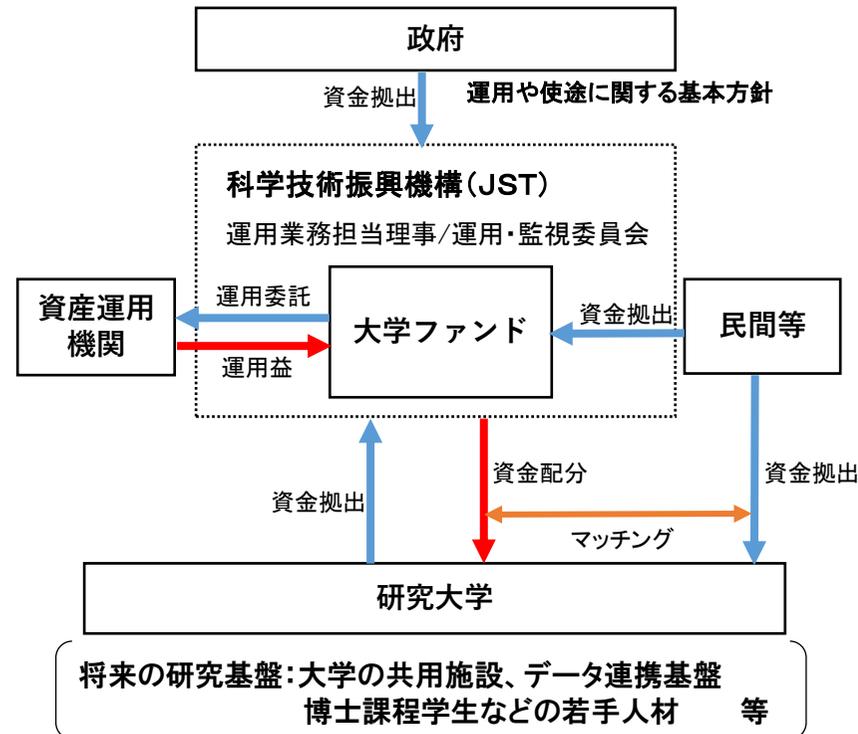
## 事業内容

- 我が国においても、世界と伍する研究大学を構築していくことが重要との観点から、**科学技術振興機構 (JST) に大学ファンドを設置**し、今年度中に運用を開始。
- 世界最高水準の研究大学を形成するため、**10兆円規模の大学ファンドを創設**し、研究基盤への長期的・安定的な支援を行うことにより、我が国の研究大学における**研究力を抜本的に強化**する。  
※6,111億円の政府出資金を措置することで自己資本を拡充し、10兆円規模においても従来の自己資本比率を維持。

**「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」(令和3年11月19日閣議決定) (抄)**

世界最高水準の研究大学を形成するため、10兆円規模の大学ファンドを本年度内に実現する。本年度末目途に運用を開始し、世界に比肩するレベルの研究開発を行う大学の博士課程学生、若手人材育成等の研究基盤への大胆な投資を行う。財政融資資金の償還確実性の担保の観点から、償還期には過去の大きな市場変動にも耐えられる水準の安定的な財務基盤の形成を目指す。

また、世界と伍する研究大学に求められる、ガバナンス改革など大学改革の実現に向けて、新たな大学制度を構築するための関連法案の次期通常国会への提出を目指す。本ファンドの支援に当たっては、参画大学における自己収入の確実な増加とファンドへの資金拠出を恣にする仕組みとし、世界トップ大学並みの事業成長を図る。将来的には、政府出資などの資金から移行を図り、参画大学が自らの資金で大学固有基金の運用を行うことを目指す。併せて、科学技術分野において世界と戦える優秀な若手研究者の人材育成等を行う。それらにより、世界最高水準の研究環境の構築や高等教育の質の向上を図る。



# 令和4年度 文部科学省予算(案)のポイント (教育関係)

## 文教関係予算のポイント

4兆64億円 (4兆207億円)



### 「令和の日本型学校教育」の推進

教科担任制の推進等による個別最適な学びと協働的な学びの実現や学校における働き方改革の推進に向けた教師等の指導体制の充実

- ・ 小学校高学年の教科担任制や35人学級の推進等 ⑨ 1兆5,015億円 (1兆5,164億円)
- ・ 学校における働き方改革の推進のための支援スタッフの充実 ⑩⑫ 201億円 (184億円)

### 令和の日本型学校教育に対応した教師の養成・採用・研修の一体的改革

- ・ (独)教職員支援機構の環境整備、新任校長向け集合ハイブリッド研修等⑪14億円 (13億円)  
※特定免許状失効者等データベースの構築等 ⑫【10億円】

### GIGAスクール構想の着実な推進と学びの充実

- ・ GIGAスクール運営支援センターの整備、ICT活用の指導力向上支援等 ⑬⑭ 14億円 (4億円) 【136億円】
- ・ 学習者用デジタル教科書普及促進 ⑮ 23億円 (22億円) 【65億円】
- ・ CBTシステム (MEXCBT:メクビット) の拡充・活用推進 ⑯ 5億円 (6億円) 【5億円】

### 全ての子供に質の高い学びを保障する幼児教育スタートプランの実現

- ・ 幼保小接続期の教育の質向上・施設整備による学びや生活の基盤づくり ⑰ 50億円 (48億円) 【226億円】

### 新時代に対応した高等学校改革の推進、道徳教育の充実

- ・ 普通科改革支援をはじめとする高校の特色化・魅力化の推進 ⑱ 2億円 (新規)
- ・ 専門高校と企業等の連携・協働による職業教育の充実 ⑲ 3億円 (2億円)
- ・ 道徳教育の抜本的改善・充実 ⑳ 42億円 (42億円)

### 学校保健の推進と感染症対策の充実 ㉑

- ・ 学校健康診断情報の本人への提供(PHR)の推進等 6億円 (5億円)  
※学校等の感染症対策等支援【305億円】

### 学制150年記念事業

- ・ 学制発布150年を記念した事業の実施 ㉒ 0.3億円 (新規)

	令和3年度額	令和4年度額(案)	比較増額	比較増率
文部科学省	5兆2,980億円	5兆2,818億円	△162億円	0.3%減

注)各項目の右側の丸数字は当該項目の参考資料のページ数。  
( )内は令和3年度予算額。【 】内は令和3年度補正予算額。  
デジタル庁計上予算は以下の当該項目の予算額(案)に含む。



### 新しい時代の学びを支える学校施設整備

新しい時代の学びに応じた教育環境の向上と老朽化対策の一体的整備、キャンパスの共創拠点化、脱炭素化など計画的・効率的な学校施設等の整備の推進

- ・ 公立学校施設整備 ㉓ 688億円 (688億円) 【1,312億円】
- ・ 国立大学・高専等施設整備 ㉔ 363億円 (363億円) 【646億円】
- ・ 私立学校施設等整備 ㉕ 99億円 (100億円) 【93億円】
- ・ 認定こども園施設整備 ㉖ 25億円 (25億円) 【140億円】



### 高等教育機関の多様なミッションの実現

大学からの社会変革を目指した、基盤的経費の充実や客観的指標に基づくメリハリある配分による改革の徹底、高専の高度化・国際化の推進

- ・ 国立大学改革の推進 ㉗ 1兆836億円 (1兆838億円) 【200億円】
- ・ 国立高等専門学校の高度化・国際化 ㉘ 625億円 (624億円) 【81億円】
- ・ 私立大学等の改革の推進 ㉙ 4,001億円 (3,985億円)

### Society 5.0の実現及びポストコロナ時代における高度専門人材の育成等の推進

- ・ 大学における地域活性化人材の育成 ㉚ 15億円 (新規)
- ・ 数理・データサイエンス・AI教育の推進 ㉛ 23億円 (17億円)
- ・ ポストコロナ時代に必要とされる医療人材の養成 ㉜ 8億円 (新規) 【39億円】
- ・ ウィズコロナ・ポストコロナ時代の高大接続改革の推進 ㉝ 6億円 (9億円)

# 令和4年度 文部科学省予算(案)のポイント (教育、スポーツ、文化芸術関係)



## 誰もが学ぶことができる機会の保障

### 教育相談体制等の充実によるいじめ、不登校、虐待、自殺対策等の推進

- ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置充実、電話・SNS等を活用した相談体制の充実、自殺対策等の推進 ③ 80億円 (75億円)
- ・夜間中学の設置促進等 ③ 0.8億円 (0.7億円)

### 外国人の受入れ拡大に対応し、共生社会の実現を図るための、日本語教育・外国人児童生徒等への教育等の充実 ③④

- ・生活者としての外国人等に対する日本語教育の推進 10億円 (10億円)
- ・学校における日本語指導体制等の充実や外国人の子供の就学促進 12億円 (10億円)
- ・外国人学校の保健衛生環境の確保に向けた取組 0.6億円 (新規)

### グローバル社会に生きる児童生徒の教育機会の充実

- ・在外教育施設の機能強化 (教師派遣、特色化支援等) ③⑤ 172億円 (173億円) 【1億円】

### コミュニティ・スクールと地域学校協働活動との一体的推進等による地域や家庭の教育力の向上や体験活動の充実、学校安全体制の整備の推進

- ・学校を核とした地域力強化等 76億円 (75億円)  
(地域による学習支援③⑥、家庭教育支援③⑦、体験活動③⑧、読書活動の機会の確保③⑨等)
- ・学校安全体制の整備 ④⑩ 6億円 (6億円)

### 就学前から高等教育段階、卒業後も含めた生涯を通じた障害者の学びの推進

- ・大学等や学校卒業後における障害者の学びの支援の推進 ④⑪ 2億円 (2億円)
- ・切れ目ない支援体制構築に向けた特別支援教育の充実 ④⑫ 43億円 (35億円)

### 人生100年時代等を見据えたりカレント教育等社会人が学び直す機会や職業教育の拡充

- ・放送大学におけるAI教育等のエキスパートレベルのコンテンツ制作等④⑬ 74億円 (74億円)
- ・専修学校におけるDX人材養成のための教育プログラムの開発・実証等④⑭ 10億円 (7億円)

### 各教育段階の負担軽減による学びのセーフティネットの構築

- ・高校生等への修学支援 ④⑮ 4,300億円 (4,335億円)
- ・高等教育の修学支援の確実な実施 (内閣府計上分含む) ④⑯ 6,211億円 (5,840億円) 【675億円】



## スポーツ関係予算のポイント 355億円 (354億円) 【101億円】

### Sport in Lifeの実現に向けたスポーツ環境整備の促進・地方創生

- ・スポーツ参画人口の拡大に向けた地域スポーツ環境の整備 ④⑰ 3億円 (3億円)
- ・障害者スポーツ推進プロジェクト ④⑱ 2億円 (1億円)
- ・子供の体力向上に向けた取組の推進 ④⑲ 3億円 (3億円)
- ・子供のスポーツ機会確保・充実に向けた運動部活動改革の加速化⑤⑰⑱ 14億円 (3億円)
- ・アスリートに対するキャリア形成支援の推進 ⑤⑲ 0.7億円 (0.7億円)

### 新たなスポーツの価値の創出・持続可能な競技力向上体制の確立等

- ・競技力向上事業 ⑤⑲ 100億円 (103億円)
- ・競技団体の組織基盤強化 ⑤⑲ 3億円 (新規)
- ・アンチ・ドーピング体制の整備・強化 ⑤⑲ 3億円 (3億円)
- ・ポストスポーツ・フォー・トゥモロウの推進 ⑤⑲ 2億円 (新規)
- ・スポーツを「する」「みる」「さえる」場面におけるテクノロジーの活用推進⑥⑰ 2億円 (新規)  
※全国規模のスポーツイベント等の開催支援【51億円】



## 文化芸術関係予算のポイント 1,076億円 (1,075億円) ※国際観光旅客税財源を充当する事業を別途計上(22億円) 【905億円】

### 文化芸術の新たな政策パッケージを基軸とした文化芸術の創造・発展と人材育成⑤⑲

- ・文化芸術のグローバル展開 44億円 (47億円) 【1億円】
- ・文化芸術による創造性豊かな子供の育成 73億円 (71億円) 【55億円】  
※コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援【621億円】

### 「文化財の匠プロジェクト」等の推進による文化資源の持続可能な活用の促進⑥⑰

- ・文化財の匠プロジェクトによる継承基盤の整備 252億円 (267億円) 【89億円】
- ・多様な文化遺産の公開活用の促進等 193億円 (191億円) 【66億円】

### 文化振興を支える拠点等の整備・充実 ⑤⑲

- ・文化拠点機能強化・文化観光推進プラン 22億円 (20億円)
- ・博物館機能強化の推進 4億円 (新規)
- ・国立文化施設の機能強化・整備 318億円 (312億円) 【51億円】

# 令和4年度 文部科学省予算(案)のポイント (科学技術関係)

**科学技術予算のポイント** 9,777億円 (9,768億円) 【1兆371億円】  
 ※エネルギー対策特別会計への繰入額1,080億円 (1,082億円) 【82億円】を含む

## 我が国の抜本的な研究力向上と優秀な人材の育成

**世界と伍する研究大学の実現に向けた大学ファンドの創設**⑥  
 (R2補正5,000億円+R3財投4兆円)【6,111億円】  
 ※令和4年度財政投融资資金計画額(案)4兆8,889億円

### 我が国の研究力の総合的・抜本的な強化

⑥①

- ・博士課程学生を含めた若手研究者の処遇向上と研究環境確保 (創発的研究の推進 等) 34億円 ( 23億円) 【400億円】
- ・科学研究費助成事業 (科研費) 2,377億円 (2,377億円) 【110億円】
- ・戦略的創造研究推進事業 (新技術シーズ創出) 428億円 ( 428億円)
- ・未来社会創造事業 91億円 ( 87億円)
- ・世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI) 61億円 ( 61億円)  
 ※ムーンショット型研究開発【680億円】

## Society 5.0を実現し未来を切り拓くイノベーション創出とそれを支える基盤の強化

### 地域の中核となる大学の強化や社会変革への対応等に向けたイノベーションの創出

⑥

- ・共創の場形成支援 138億円 ( 137億円)
- ・大学発新産業創出プログラム (START) 21億円 ( 20億円) 【 25億円】

### 研究のデジタルトランスフォーメーション (DX) の推進

⑥①

- ・マテリアルDXプラットフォームの実現 52億円 ( 38億円) 【 71億円】
- ・AI等の活用を推進する研究データシステム構築事業 10億円 ( 新規 )

### 世界最高水準の大型研究施設の整備・成果創出の促進

⑥③

- ・官民地域パートナーシップによる次世代放射光施設の推進 22億円 ( 12億円) 【 40億円】
- ・最先端大型研究施設の整備・共用 441億円 ( 432億円) 【 10億円】
- 次世代計算基盤の調査研究 4億円 ( 新規 )



## 重点分野の研究開発の戦略的推進

### AI、量子技術戦略等の国家戦略を踏まえた重点分野の研究開発の戦略的推進

⑥④

- ・理研・革新知能統合研究センター (AIPセンター) 32億円 ( 32億円) 【 3億円】
- ・AI等の活用を推進する研究データシステム構築事業【再掲】 10億円 ( 新規 )
- ・光・量子飛躍フロッグシッピングプログラム (Q-LEAP) 37億円 ( 35億円)  
 ※経済安全保障重要技術育成プログラム (ビジョン実現型)【1,250億円】

### 健康・医療分野の研究開発の推進

⑥⑤

- ・再生医療実現拠点ネットワークプログラム 91億円 ( 91億円)  
 ※ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成【515億円】



## 国民の安全・安心やフロンティアの開拓に資する課題解決型研究開発の推進

### 宇宙・航空分野の研究開発の推進

⑥⑥

※宇宙関係予算: R4当初+R3補正 (R3当初+R2補正) : 2,212億円 (2,124億円)

- ・アルテミス計画を含む宇宙科学・探査や宇宙活動を支える基盤の強化 938億円 (936億円) 【532億円】
- 革新的将来輸送システムマップ実現に向けた研究開発 31億円 ( 14億円) 【 8億円】

### 海洋・極域分野の研究開発の推進

⑥⑦

- ・北極域研究船の建造 36億円 ( 5億円) 【 91億円】

### 防災・減災分野の研究開発の推進

⑥⑧

- ・N-netを含む海底地震・津波観測網の構築・運用等 12億円 ( 11億円) 【 40億円】

### 環境エネルギー分野の研究開発の推進

⑥⑨

- ・ITER (国際熱核融合実験炉) 計画等の実施 214億円 (219億円) 【 98億円】  
 ※ITER関係予算: R4当初+R3補正 (R3当初+R2補正) : 312億円 (237億円)
- ・革新的な半導体創出に向けた研究開発 23億円 ( 14億円) 【 30億円】

### 原子力分野の研究開発・安全確保対策等の推進

⑦⑩

- ・高温ガス炉や高速炉・核燃料サイクル等に係る研究開発・人材育成及びバックエンド対策の着実な推進 683億円 (679億円) 【 82億円】  
 ※エネ特
- 「もんじゅ」サイトを活用した新たな試験研究炉 4億円 ( 1億円)